



「未来の幸せ」を考える③ ～学級自尊感情（支持的風土）の醸成～

校長 山田 哲哉

夏休み明けの1週間、担任不在の3年生1クラスの自主学習を見させてもらいました。夏休み中も地道にこつこつ漢字や計算練習に取り組んだり、日記を書いたり、自分の興味のあることを調べたりした努力の跡に触れ、うれしくなりました。

夏休みが明けてからのある日、A子さんは自主学習で「友だちのすごいところを書いてみよう」と課題に掲げ、「B子さんはいつも元気に『あそぼう』と言ってくれます。いつも明るくてパワーをもらえます。いやな気持ちになっても、B子さんがいるといい気持ちになれます。」と書きました。

また、転入生のC男さんについて、「C男さんは、はじめてなのにすごくべんきょうをがんばっていました。みんなといっしょにやりながらがんばっていてすごいなと思いました。」と書いていました。

いずれも、何と温かい眼差しでしょう。

翌日、A子さんは、「より良いクラスにするためにアイデアを書いていこう」をテーマに、「友だちにはやさしく」など4つのアイデアとその理由を書き、最後に「このクラスをいいクラスにしていきたいです。みんなやさしく、きまりをまもるクラスにしていきたいなと思いました。」と書きました。きっと、既にいいクラスですね。

別の日にB子さんは、「A子さんのいいところ」として、「やさしい」「物を大切にしている」「いつも笑顔」など、10以上もいいところを見つけて書きました。さらに「D子さんのいいところ」として、「たよりになる」「いつも元気」「しっかりしている」など、やはり10以上のいいところを書いていました。友だちのよさをたくさん見つけるB子さんも素敵です。

B子さんと同じ日にE子さんは、「クラスのいいところ、すごいところを書こう」を課題に掲げ、名簿順に、「友だちがたくさんいる」「だれともなかよし」など、クラス全員のいいところ、すごいところを書いていました。「友だちのよいところをたくさん見つけたE子さんもすばらしい！」と一言添えました。

このように、夏休み明け早々、前向きで温かな言葉のシャワーを浴び、幸せな気持ちになりました。

教育ビジョンの柱の一つに掲げた「学級自尊感情（支持的風土）を醸成します」が、正に具現されているという手応えを感じました。「学級自尊感情」とは、自分のクラスに対する肯定的感情のことです。

学級自尊感情（支持的風土）が醸成されている教室は、一歩足を踏み入ただけで分かります。笑顔と前向きな言葉にあふれ、皆の居場所があり、居心地がよいのです。しかも決して排他的でなく、だれをも「ようこそ」と受け入れる懐の深さを感じます。

とばりっ子が、学級自尊感情（支持的風土）にあふれた教室で、仲間と共に学ぶ「今の幸せ」を存分に味わい、「明日の幸せ」に期待し、「未来の幸せ」を思い描くことができる、そんな学級・学校を目指しています。